

万九千社
立虫神社

社報

第一〇二号
令和八年神在月

「発行」十月吉日
代宮家
（錦田）

神戸の郷

今季の祭 その一

万九千さん

全国では神無月とよばれる旧暦十月を出雲地方では神在月と呼び慣わしてきました。

日本中の八百万神が^{やおよろずのかみ}出雲へ参集されると伝えられているからです。

私たちがお祀りする万九千社は、神々が神議りの締めくくりと直会^{なほらひ}を催し、明朝早くに諸国へとお旅立ち（神等去出^{かみらさで}からさで）なさると伝えてきました。

日本中の神様が、私たちの住まい

するこの土地のお宮へのご参集になられることは誠に尊くありがたいことです。

皆様おそろいでお参り下さい。

一、龍神祭、お忌み入り

十一月二十五日（水）
早朝 ※旧暦の十月十七日

^{りゅうじや}龍蛇の神さまを先導役とし八百万神を斐伊川でお迎えする祭です。古くから、宮司一人が人知れず行う秘儀とされ、夜明け前に斐伊川の水辺で行います。

水辺での神事が終わると、宮司は^{ひもろぎ}神籬（神の木）に遷られた神々を万九千社へと御案内します。朝日が東の空に昇る頃、神迎祭の祝詞を奏上し、当社はお忌みの期間に入ります。

一、神在祭 お忌みさん

十一月二十五日（水）
から十二月四日（金）
※旧暦の十月十七日～二十六日
期間中

九時～十六時半
万九千社神殿にて
各種ご祈禱を齎行
します。

日本中の八百万神さまは、当社に十日間参集して人々の縁結びや天下泰平、五穀豊穰、諸産業の繁栄など生きとし生けるものにとって大切な

事柄について話し合いをなさるといいます。

毎日お供え物を献じ、日本と世界の平安と繁栄を祈念する祝詞を奏上します。また、この期間に参拝者の願いに応じた特別祈禱を行います。

御神酒は旧暦十月に限り、「からさでの梅酒」をおわちします。

古来、神在祭のことを地元では「お忌みさん」と呼びました。「お忌み」とは、神々の滞在や会議を邪魔しないように、忌み慎んだ祭事や生活をすることを言います。

一、前夜祭

十二月三日（木）

※旧暦十月二十五日

戸を閉ざした社殿内で宮司ほか神職が奉仕します。

明日の神等去出祭を前に、宮司ほかの奉仕者が神社に布団を持ち込んで一夜を過ごす、「お籠もり」の神事も行います。

これには、神々のおそばで忌み籠もることで、心身の清浄を極め、靈魂を鎮める意味があります。

十二月四日

（金曜日）

※旧暦十月二十六日

一、大祭

午前九時～正午頃
万九千社にて

ご祈禱

立虫神社拝殿にて
神在みくじ

・午後五時～
湯立神楽
・午後六時～
神殿祭
神等去出神事

万九千社で最も重要な祭儀です。



（写真撮影・提供Ⅱ古川誠氏）

明治初期以来途絶えていた湯立神楽を平成二十九年に復興して十年目を迎えます。

この神楽は、神さまの旅立ちを前に神々と人々の前途、祭場・祭員・参拝者にまつわる全てのモノ、コトを清々しく祓い清めるものです。



その後、神殿祭を行い、たくさんのお供え物をして会議の締めくくりと直会（なおりい）をなさる全国^のの神さまを静かにおもてなします。

日没頃には、神々に明朝の旅立ちの時が近づいたことをお告げする神等去出神事を行い、今後も全国の人々の幸をお守りいただくべく御祈念します。この神事を「からさでさん」と呼んでいます。

宮司が社殿の御扉を梅の小枝で叩きながら、「お立ち、お立ち、お立ち」と三度唱えて神事を閉じます。



この一連の神事後、神々の直会が始まります。神殿と境内は、神様だけの時間と空間に変わります。

私たち人間は、お邪魔にならぬよう、その場から立ち去らねばなりません。

神等去出の夜、境内に入ったり中を覗き見たりすると神罰が当たると恐れ、先人たちは静かに過ごしてきました。

草取り大作戦！

奉仕者(ボランティア)

募集のお願い

万九千社の大祭の前に、左記により地域の皆様のお力をお寄せいただきたく、神社関係者一同謹んでお願い申し上げます。皆様のご参加をお待ちしています。

一、日時

令和8年11月8日(日)
午前8時半～11時半

二、作業場所と内容

境内・公園の清掃除草

二、参加者

鎮守の森の保全活動に協力いただける方

三、持参品 手袋、帽子

雨具、草取り道具など

四、その他

お茶等は用意します。

五、お問合せ先

万九千社社務所まで

名物！

からさでそば

(釜揚げ)



平成三十年に復活しました万九千さん名物、**釜揚げの出雲そば**：「からさでそば」出雲の老舗、玉木製麺、農業に励む出雲生姜屋、農家の糸賀充さんほかが出店予定です。また今年は新たに「出雲神立米」を使用した炊き込みご飯もご用意される予定です。

今季の祭 その二

十二月五日(土)

午後二時より

一、あとまつり

一、**立虫神社**

新嘗祭

万九千社から神々が無事に旅立たれたことを寿ぐあとまつりと今年収穫されたお米をはじめとする新穀を

令和の森づくり通信その3

景観造成が進み、石垣・盛り土がほぼ完成しました。

着々と土壌改良と石組みが進み、今後の植樹のためのきれいな盛土が概ね完成しました。今年度の主要事業は10月末頃までに完了予定です。



万九千社と立虫神社の神々にお供えする新嘗祭を齋行します。

農業はもとより諸産業繁栄の感謝を申し上げ、人々の幸福と弥栄を祈念します。

※※お供え、お米当番の方は、午前八時～午後二時までに、神社参集殿へお供えのうえ御参拝下さい。

神在月の

特別な祈願

「神在みくじ」

十一月九日(月)～
十二月五日(土)

当社に古来より伝わる稲作の出来高を占う「お種組」の特殊神事に則つて、出雲にお集まりの八百万神さまの御前で、祈願者お一人ずつの明年の幸福をお祈りし、吉兆(全体運・縁結・仕事・学業・色・方角・文字など)を占います。詳しくは当社公式ホームページをご覧ください。



(空撮写真提供…出雲土建株式会社)

【編集後記】

全国各地で氏神様の秋祭りが盛んに行なわれ、それらが一段落するころ、出雲地方では旧暦十月神在月のお祭りが始まります。神在月にゆかりある各社が、先人たちの祈りをそれぞれの方法で伝えている様子から、出雲の國の文化の豊かさを感じます。

万九千社もゆかりの御社の一つです。祈りと文化を未来に繋ぐべく、心してご奉仕してまいります。(編集文責 禰宜 錦田寛史)